The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	胃癌病理解剖例の統計的検討
Author(s)	森野, 英男
Citation	大阪大学, 1978, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/32122
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【15】

氏名・(本籍)	森野英男（もりの ひでお）
学位の種類	医学博士
学位記番号	第 4236 号
学位授与の日付	昭和53年3月25日
学位授与の要件	医学研究科 病理系 学位規則第5条第1項該当
学位論文題目	**胃癌病理解剖例の統計的検討**
論文審査委員	(主査) 教授 北村 旦 (副査) 教授 岡野 錦弥 教授 神前 五郎

論文内容の要旨

胃癌病理解剖例の頻度，年令分布，転移と再発，合併症及び重複癌についてその実態を明らかにすることを目的として(A)日本病理剖検輯報記載例（1968～1972年における全胃癌例12,020例：男 7,714例，女 4,281例，性不明25例を対象とした多数例の主に量的側面からの観察と(B)当教室胃癌病理解剖例（1967～76年における全胃癌例 285例：男 202例，女83例，非切除例152例，切除例133例）を対象とした詳細な分析との両側面から検討した。(A)については当教室でTanacカードを用いてカード化されており，これを使用して集計し(B)については剖検プロトコール肉眼写真及び組織標本（切除例では切除胃標本）を検討し集計した。

Ⅰ．頻度：全剖検数に占める胃癌の割合は(A)では10.4%(B)では11.1%である。

Ⅱ．年令と性比：(A)によると平均年令は59.4才で男より女が約4才若い。男では65—69才，女では60—64才で最も例数が多い。男より女が分布がなめらかである。若年者（34才以下）は 6.3%を占める。男女比は(A)で1.8：1，(B)で2.4：1である。若年者では男より女が多い。（56.7%）

Ⅲ．原発巣〔(B)による〕：肉眼的所見ではA（下部）を主部位とするものが多いが女は男よりM（中部）を主部位とする率が高い。Borrmann分類ではⅢ型が多く次いで非切除例ではⅣ型，切除例ではⅡ型が多い。女は男よりⅢ型，Ⅳ型，とくにⅣ型が多い。組織型では低分化腺癌（por）が最も多い。男では乳頭腺癌（pap），高分化及び中分化管状腺癌（tubi，tubz），間質表現中間型（Ⅰ型）浸潤様式INF β が多いのに対し女ではpor及び印環細胞癌（sig），硬性型（S型），INF γ が多い。膠様腺癌（muc）の率は男女間で差がない。若年者は女と同様の傾向がある。深達度については予後的漿膜因子ps（＋）が多く，若年者ではことにそうである。深達度と組織型との関係は，pap＋tub_1，tub_2，

por，muc及びsigの順にps（＋）が多いがこの関係は男女間で差はない。深達度と浸潤度と浸潤様式との関係についてはINFαではps（－）が多く，βではps（－），ps（＋）がほぼ等しくγではごくps（＋）が多い。リンパ管侵襲（ly）は高度のものが多く，男女間及び年令によって大差はない。muc，sigでは軽度のものが多い。静脈侵襲（v）は軽度のものが多い。tub_2でv（＋）が多くmuc，sigではv（－）が多くまたS型でv（－）が多い。Borrmann分類と組織型，間質表現及び浸潤様式との関係についてはⅠ型，Ⅱ型は男ではpap＋tub_1，及びtub_2が多く女ではporが多い。またⅠ型，M型を主体としINFβが多い。Ⅲ型，Ⅳ型ではporが多くⅠ型S型を主体としINFγが多い。muc，SigではⅢ型，Ⅳ型が大半である。

Ⅳ．転移：(A)によれば転移率は男88.8%女91.9%である。各臓器転移率はリンパ節74.0%肝48.8%腹膜38.1%肺31.1%膵28.3%腸管19.8%副腎18.2%の順に低くなる。一般に女の方が転移率が高く腹膜転移でその差は大きいが逆に肝転移は男の方が大差で多い。肺，膵，脾，副腎，及び腎転移は肝転移と，腸管，卵巣転移は腹膜転移と関係が深い。男女とも若年者で転移率が高い。以下(B)について述べると，転移率は男86.8%女94.0%でありリンパ節88.8%肝48.4%腹膜45.6%肺38.9%膵27.4%腸管23.9%副腎21.8%の順に低くなる。男より女が，また若年者ほど転移率が高く進展度が高い。男より女がまた若年者ほど腹膜及びリンパ節への転移率は高くかつ転移度が高度であるが，逆に肝転移率は低くかつ軽度である。進展型では男は肝（H）型が多く女は腹膜（P）型が多いが男でも若年者ではP型をとる。原発巣と転移との関係をみるとBorrmann Ⅰ型，Ⅱ型，papt tub_1，tub_2，M型，ps(－)のものは，おのおのBorrmann Ⅲ型，Ⅳ型，por，muc，sig，S型，ps（＋）のものと比べて進展度はやや軽度で腹膜への転移率は低く転移度は軽度で進展型P型は少なく逆に肝への転移率は高く高度で，H型が多い。肺転移はtub_2で最も多くかつ高度である。リンパ節転移はporで高度なものが多い。ly-，v-の程度は腹膜転移の関係はなく肝転移はおのおのともに強いほど多くかつ高度である。

Ⅴ．再発：

節，広汎な転移のため決定し難いもの各10例，肝8例である。男では肝下部，女では腹膜が多い。Borrmann Ⅰ，Ⅱ型，pap＋tub_1，tub_2，M型，ps（－）のものは肝下部，肝再発が多く，Borrmann Ⅲ，Ⅳ型por，muc，Sig，S型，ps（＋）のものは腹膜再発が多い。

Ⅵ．合併症：(A)(B)では黄疸は男に多く(B)ではイレウス，水腎症は女に多い。(B)によると黄疸があるときH型の進展型を示すものが多く一方イレウス，水腎症がある場合は殆んどがP型である。

Ⅶ．重複癌：(A)によれば重複癌は男で6.2%女で4.0%を占める。

主に転移について検討したが，男女の転移の特徴差異について(A)(B)からほぼ同様の結果が得られ，(B)からそれは，原発巣の肉眼的，組織学的所見の差異に基づくものであることが明らかとなった。

論文の審査結果の要旨

胃癌の剖検例を対象とする統計的研究は少い。本研究は日本病理剖検輯報所載12,020例及び大阪大

学第一病理学教室剖検285例を対象として胃癌の年令・性・原発巣・転移相・合併症・重複癌について綜合的に検討したものである。その結果，男女間には転移様相に差があることを明らかにしている。男では肝転移型が多く女では腹膜転移型が多い，これは男では分化癌（高分化管状腺癌・中分化管状腺癌）が多く，女では未分化癌（低分化腺癌・膠様腺癌・印環細胞癌）が多いことによると結論づけている。本研究は，胃癌の病理解剖学的研究に意義あるものと認める。